

合科による天文学習の一例

一言語活動を中心として

○西村 一洋

NISHIMURA Kazuhiro

枚方市立樟葉西小学校

【キーワード】 星座、ローヌ川月星夜、鑑賞、ゴッホ、言語活動

1 目的

「ゴッホは、何座を描いたのだろうか？」を課題にして、ゴッホのローヌ川月星夜(図1)を見て、ディスカッションを展開した。この授業を展開するのに石坂¹⁾(2012)の「ローヌ川の星月夜」と“秋の大びしゃく”がヒントになり、授業の実践を行った。このクラスを担当したのは、昨年の11月からで、子どもたちにとっては、3人目の担任となった。最初、しら~とした雰囲気、何があっても、ほとんど無言で、意見を言う子も見当たらなかった。そこで、何かのきっかけで、発言ができるようにならないかと思い、本実践を試みた。またこの授業実践を行うに際して、教員免許更新講習で学んだACOPの授業をヒントに行った。



図1

2 方法

(1) 実践校・学年

実践校：大阪府枚方市立樟葉西小学校

実施学年：6 学年

実施時期：2012 年 2 月

(2) 授業実践 1 (1 時間完了)

ゴッホの絵の鑑賞をする前に、4 学年のときに学習した星座の復習をした。



図2

(3) 授業実践 2 (1 時間完了)

ゴッホのローヌ川月星夜(図1)を見て、気がついたことを発表させるところから始めた。自主的に手を挙げて、発表をさせることにした。

ある程度、発表が終わると、次は、「ゴッホは、何座を描いたのだろうか？」と発問をした。そのとき、ただ単に星座名をいうのではなく、

その理由も言わせるようにした。

3 結果

ほぼ全員の子が、手を挙げて発表をした。星座に関しても、子どもたちは、なぜその星座だと思ったのか理由もうまくいっていた。「北斗七星だと思います。ひしゃくの形をしているので、北を向いて春に描いたと思います。」「北斗七星なら少し形が違うので、こぐま座だと思います。この時代は、今よりもっと明るくこぐまが見えていたと思います。」「いて座にある南斗六星を見ていたと思います。夏に南の空を見ていたと思います。低い場所に見えているからです。」「しし座の頭の部分、おおがまと言われているところだと思います。春に南の空を見たと思います。」「ペガスス座の四辺形とアンドロメダ座を見て、ひしゃくを描いたと思います。秋の空を見たと思います。」などいろいろな意見が出た。

4 考察

今回、答えのない問題で意見を出させた。どのような意見を言っても間違いだと言えないので、どんどん意見が出たのではないかと思う。また、星座の復習をしたことが意見を出しやすかったのではないかと考えられる。最後のまとめをするときに、「本当は何座を描いたの？」質問が出てきた。当然のことと考えられる。

5 まとめ

たくさんの意見を出させることを目的として、授業を行った。このことは、達成されたと思う。また、考える力もついてきたのではないと思われる。

6 謝辞

この授業をするのに、ヒントを出してくださった大阪市立科学館の石坂千春氏、授業方法のヒントをいただいた京都造形芸術大学の福のり子先生に感謝いたします。

参考・引用文献

1) 石坂千春：「ローヌ川の星月夜」と“秋の大びしゃく”，天文教育 Vol.21 No.1、通巻 114 号 83-92，2012，天文教育普及研究会